

「最近のワクチン接種について」

～水痘ワクチンとB型肝炎・ロタウィルスワクチンについて～

平成 26 年 9 月放送

安藤 徹

この 10 月から水痘ワクチンが定期接種になります。今日はこの水痘ワクチンと任意接種である B 型肝炎ワクチン、ロタウィルスワクチンについてお話しいたします。

水痘ワクチンは 1974 年に日本で開発されたワクチンです。現在までに世界中で使用され、その効果は広く認められています。しかし、日本では現在まで、定期接種ではありませんでした。ワクチンを受ける人は年々増えていますが、近年でも対象者の約 40～50%と低く、そのため、毎年水痘の流行を繰り返しています。アメリカ合衆国では、1996 年から定期接種となり、さらに 2006 年からは 2 回接種となりました。それにより、水痘の患者さんは激減しています。

水痘はたいへん感染力も強く、まれではありますが、肺炎、脳炎、血小板減少症などの合併症や細菌感染の併発をおこして重症化することもあります。今年の 10 月から、1 歳から 2 歳のお子さんを対象に水痘ワクチンの定期接種が始まります。また今まで水痘ワクチンを接種していない 3 歳と 4 歳のお子さん



は、特例として半年間は 1 回だけ接種できます。ぜひ早めにワクチンを打って、水痘にならないようにしましょう。

次に 2 つの任意接種のワクチンについてお話しします。B 型肝炎とロタウィルスのワクチンについてです。これらのワクチンは任意接種のため、市町村か

らの通知もありませんし、接種費用の助成もありません。しかし、重要なワクチンであることには変わりません。

B型肝炎ウイルスは、血液から感染します。日本では、お母さんがB型肝炎の場合、出生時に赤ちゃんに感染する可能性があるため、生まれてきた赤ちゃんにワクチンを打って、感染を予防してきました。それによって小児のB型肝炎の患者さんは減少しましたが、現在でも年間約 6,000 人の新たな患者さんがでています。世界の多くの国ではB型肝炎ワクチンは定期接種として乳児早期に接種されています。しかし、現在の日本では、定期接種でないために、集団感染した例がときどき報告されています。また乳幼児期にB型肝炎ウイルスに感染すると、すぐには症状がでず、長い年月の後に肝硬変、そして一部は肝臓癌を発症することも知られています。癌を予防する意味でも、ぜひワクチン接種をお勧めいたします。

ロタウイルスは冬から春にかけて流行する胃腸炎の原因ウイルスの一つです。嘔吐と白っぽい下痢のため、脱水症状をおこして入院になる場合もしばしば見られます。感染力はつよく保育園や幼稚園で流行することもよくみられます。

ワクチンはシロップで、4週間以上あけて、2回ないし3回飲むワクチンです。ただし、ワクチンを飲む時期が決まっています。乳幼児期から保育園に通われるお子さんは、詳しい話を小児科医師に早めに聞かれるとよいでしょう。

予防接種により、天然痘は地球上から根絶され、50年くらい前には流行していたはしかやポリオ、ジフテリアも今ではほとんど見られなくなりました。定期接種として決められたワクチンはもちろん、任意接種のワクチンもお医者さんからよく説明を聞いて、接種されることをお勧めします。

ぜひワクチンで防げる病気は、ワクチン接種で防ぎましょう。